

11月27日 ゲスト卓話



地区ロータリー財団部門

ポリオ・プラス委員会

中川高志 様

(大宮ロータリークラブ)

ポリオの基礎知識とポリオ根絶計画

ポリオの基礎知識

ポリオとは急性灰白髄炎(小児麻痺)のことです。原因はウイルスです。宿主はヒトでヒト以外に感染しません。経口的に感染し、主に5歳以下の子供に感染します。

人がポリオウイルスに感染しても9～95%は不顕性感染に終わり症状

は何も現れません。約 5%程度が発熱、頭痛、咽頭炎、悪心、嘔吐などの症状を示す不全型の感染をします。1~2%で無菌性髄膜炎になり、麻痺発症に至るのは 1%未満です。ポリオウイルスは何らかのメカニズムで中枢神経に入り込んでしまいます。そして、脊髓前角の運動神経細胞で爆発的に増殖し、運動神経細胞を破壊し麻痺を発症させます。呼吸をするのに大切な肋間筋横隔膜が麻痺すれば呼吸ができず死に至ります。

麻痺の進行を止めたり、麻痺を回復させるための治療が試みられてきましたが、現在でも特効薬はなく確実な治療法はありません。

しかし、ワクチン投与により予防することは可能です。ポリオワクチンには生ワクチンと不活化ワクチンがあります。生ワクチンは免疫効果が大きく、安価(60セント)で、経口投与ができるためポリオ根絶計画では生ワクチンが使われています。

日本では、1960年に北海道を中心に5000名以上の患者発生となる大流行がありました。これを契機にワクチン投与が始まり流行は急速に終息しました。1980年を最後にポリオの感染は見られていません。いわゆる団塊の世代に一番多くの犠牲者が出て、今でもその後遺症に苦しんでいる方が少なくありません。日本にとってもかつては猛威を振るった伝染病でした。

ポリオ根絶計画

1958年、WHOは世界天然痘根絶計画を採択します。そして、1980年、WHOは天然痘の根絶を宣言しました。人類が根絶できた唯一の感染症です。そして、1974年、WHOはワクチンにより予防可能な6つの疾患、ポリオ、ジフテリア、百日咳、破傷風、麻疹、結核に対する免疫拡大計画を採択します。1979年、国際ロータリーはフィリピン政府と共同で600万人の子供にポリオの予防接種を行う5ヵ年活動を開始します。1985年には国際ロータリーは公共保健推進計画の民間部門支援としては世界初しかも最大規模となる「ポリオ・プラス」を開始し、1億2千万米ドルの寄付を誓約します(ポリオ・プラスのプラスとは上記の6つの感染症を言います)。そして1988年当初の目標を上回る2億4700万米ドルをポリオ根絶のために寄付します。これがきっかけとなり同年WHOは総会で2000年までに地球上からポリオを根絶する決議案を採択し、世界ポリオ根絶計画(GPEI)の発足へ道を開きます。

このように1988年よりはじまったポリオ根絶系計画(GPEI)は、国際ロータリークラブ(RI)、世界保健機構(WHO)、国際児童基金(ユニセフ)、米国疾病対策センター(CDC)が主導団体として推し進められています。

そして 2014 年 3 月、WHO はインドの野生ポリオ根絶を宣言しました。現在常在国はパキスタン、アフガニスタン、ナイジェリアの 3 か国となり、ポリオ発症例は 1988 年当時の 1 パーセント以下になっています。いよいよエンドゲームになってきました。

2007 年より国際ロータリーはゲイツ財団とパートナーシップを結び資金面でも新たな展開になってきました。GPEI の計画は 2013 年～2018 年の 5 年間でポリオを根絶する。そのために 55 億米ドルの資金を調達するというものです。現時点ではまだ全資金の調達はできていません(2013 年時点で 40 億米ドル決定)。さらに努力する必要があります。国際ロータリークラブとゲイツ財団はパートナーシップを拡大し 5 年間、毎年 RI3500 万米ドルに対し、ゲイツ財団 7000 万米ドル拠出することになっています。あと少しで天然痘に次ぐ 2 番目の感染症ポリオが人類の手でそしてそれは国際ロータリーが主導して根絶されようとしています。なんと感動的なことでしょう。